

医学教育研究成果（2019年度）の概要報告書

2020年4月30日

公益財団法人 医学教育振興財団 理事長 殿

研究代表者

大 学 名 久留米大学

職 名 講師

氏 名 小松 誠和

研究課題（和名）	アクティブラーナーを育てる協同（LTD）を基盤とした改良型 PBL テュートリアル ¹ の教育効果の分析研究
研究課題（英名）	The effect of cooperative learning (LTD)-based PBL for medical education
研究期間	平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日
研究の概要：	<p>科学技術が絶えず進歩するのと同じくして、医学の知識や技術も急速に進展している。また、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の急激な感染拡大にも代表されるように、時として社会における疾病構造も急激に変化する。医師と患者の関係においては患者中心の医療が普及しており、従来の垂直型の関係から水平型の関係に移行し医師と患者のコミュニケーションの姿も変化してきた。このように医師を取り巻く環境は目覚しく変化しており、医学教育においても多様な変化・ニーズに対し柔軟に対応できる医師の育成が求められている。このような変化・ニーズに応えるべく、本研究は主体的・対話的で深い学びを実践できる”真のアクティブラーナー”を育成することを目的とし、協同学習に依拠した LTD 基盤型 PBL テュートリアル（PBLT）の改良型プログラムを開発することを目標とした。</p> <p>LTD 基盤型 PBLT の実践には協同学習の理解・体得が必要不可欠である。協同学習とは「協同の精神」（同じ目的・目標に向かって心をつなげる）に依拠した小グループの教育的活用である。そこには「切磋琢磨」することで互いを高める関係が築かれる。協同学習ではさらに、①互恵的相互依存、②対面的・促進的な相互交流、③個人の二つの責任、④社会的スキルの促進、⑤集団の改善手続きといった要素を必要とする。単に PBLT のみを実践するのではなく、上述の協同学習を理解した上で PBLT を実践することが学習効果の向上につながる。</p> <p>本研究では、医学生を対象とする LTD コアパッケージ（協同学習の教育方法の一つ）の学習には、LTD 基盤型 PBLT につなげるための工夫を凝らした。医学に関連するコラムを用いた文章理解、X 線写真を用いた看図アプローチなど医学に関連する題材を意識して LTD コアパッケージを学習することにより、医学生には具体的学習の方向性が確認できたと考えられた。</p> <p>また、LTD 基盤型 PBLT の実践においては、以前の本学科ではグループ学習室にて各グループが PBLT を行っていたのに対し、大きな実習室でオープンスペースディスカッションを採用した。その結果、互いに活動が見えるオープンスペースディスカッションは互いに切磋琢磨する様子が観察され効果的であった。加えて、チューターにおいてもチューター同士が指導法の観察やコミュニケーションが取れることにより従来に比してチューターの質の均一性に繋がったと考えられた。</p> <p>一方で、学習提出物については電子ポートフォリオを初めて導入したが、受講生への説明・指示不足があり、従来からの質の向上があまり認められなかった。しかしながら、学習の成果を発表する発表会をポスター形式かつ特派員の技法で実施することにより協同学習の要素（特に個人の二つの責任）を意識した活発な学習を行うことができた。</p> <p>さらに、授業スケジュールの最後（最終授業回）に振り返りの時間を設けた（集団の改善手続き）。チューター有志からの客観的評価や LTD 基盤型 PBLT が実際の臨床の場面でどう活きるのについてコメントすることで、学生の学習モチベーションの向上につなげることができた。</p> <p>以上より、いくつかの点については手続きの改善必要性が残ったものの、全体としては LTD 基盤型 PBLT の改良型プログラムは学習効果の向上に寄与できると考えられ、将来、この活動が持続することにより真のアクティブラーナーを育成できると期待された。</p>